

義を貫く

かくすれば かくなるものと知りながら やむにやまれぬ 大和魂 — 吉田松陰 —

吉田松陰

出身／長州藩
生年月日／1830年9月20日
没年月日／1859年11月21日
年齢／満29歳没
長州藩士。明治維新の精神的指導者。人材育成の面で、優れた教育者でもある。幼少のころ、叔父の玉本文之進が開塾した松下村塾で、節としての教育を受ける。のち、江戸にでて佐久間象山に指事。

自分が正しいと信じることのためには、行動し続けるべきである。
その結果、自分に不利益が及ぶと分かっていたとしても、それが正しい道ならば進み続けることこそが武士道です。
そんな松陰の強い意志が感じ取れる言葉です。

私たちは「損か得か」で物事を判断してしまうことが少なくありません。
しかし・・・正しいと思うことがやれない、やらせてもらえない・・・
営利、損得を考える時、こういう場面を目にすることがあります。
損得のために「やむにやまれぬ」と自分を納得させなければならない姿を見ると、とても空しい気持ちになります。
正しいことを貫くことは決して利口な方法ではない場合も多々あります。
しかし「生き方」「人生」と考えたなら、誰も「正しいことを貫きたい」と思うのではないのでしょうか。
スポーツの世界ならば、「勝利」よりもむしろ「フェアプレー」を重んじるのが日本人です。
それは「フェアプレーで負けたなら仕方ない」ということではなくて、「フェアプレーを貫いて勝つことこそが本当の強さ」です。
私は政治家として人としてフェアプレーを大切に一回りも二回りも大きく成長し、山県市に貢献できるよう日々、精進いたします。
市民の皆様、正しいことを貫いた人々が報われる山県市を共に創りましょう。

恩田佳幸

義を貫く

【義】武士道の骨格とも言われるもので、武士道第一の徳目(美德)とされています。
【義】「正しい行い」「正義」という意味と同時に「損得を考えない」という意味もあります。